

授業科目名	外国語Ⅰ（中国語）						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	金 小賢						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	通年	必修	30	2	
授業目的 到達目標	中国語の学習を通して、豊かな発想力を涵養する。言葉の学習の過程で人間的な観察力、物事の分析力、課題設定力そして充実した気力が磨かれる。中国語検定HSK3級相当の実力を身に付けること目指し、中国語の聴解力、正確的な日常活動の応答力を身に付ける。						
授業手法	・対面 <input type="checkbox"/>	・遠隔 <input type="checkbox"/>	・対面/遠隔 <input type="checkbox"/>	・オンデマンド <input type="checkbox"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業 <input type="checkbox"/>	反転授業 <input type="checkbox"/>	調査授業 <input type="checkbox"/>	フィールドワーク <input type="checkbox"/>			
	双方向アンケート <input type="checkbox"/>	ペアワーク <input type="checkbox"/>	グループワーク <input type="checkbox"/>	ロールプレイ <input type="checkbox"/>			
	プレゼンテーション <input type="checkbox"/>	PBL <input type="checkbox"/>	模擬授業 <input type="checkbox"/>	その他 <input type="checkbox"/>			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	発音の基本/単語の覚え方の紹介			① 発音の仕組みを心得る ② 会話文の表現の特徴を把握できる ③ 自らの応答を正確、且つ効果的に表現 ④ 常用名詞を300個聴解できる ⑤ 常用動詞を300個聴解できる ⑥ 日常的な会話文を創れる ⑦ 臨機応変に単語を文章化する ⑧ 文章に正しい単語を織り込ませる ⑨ 新しい言葉学習の習慣を身に付ける ⑩ 漢字で意味がイメージできる		
	3～4	応用から基礎をつくるための学び方					
	5～6	絵を見て正確な表現を学ぶ					
	7～8	単語で文の順番を正確に配置するコツを覚える					
	9～10	会話文のかみ合わせ練習					
	11～12	単語の聴解/テーマ別でロールプレイ					
	13～14	学習のまとめ&授業内小テスト					
	15～16	HSK中国語検定の練習法の紹介					
	17～18	短文と短文の結び方練習1					
	19～20	短文と短文の結び方練習2					
	21～22	聴解の文章理解練習1					
	23～24	聴解の文章理解練習2					
	25～26	より良い文章の見分け方/オリジナル会話作文					
27～30	総まとめ						
成績評価方法	科目修了試験結果（50%）課題提出（20%）平常点（30%）						
使用テキスト ／教材	中国語検定HSK公式過去問集2級 講師配布プリント						
関連科目	外国語Ⅱ（中国語）						
その他	毎日単語を10個朗読する。※実務経験のある教員が担当する科目である。						

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	国際ビジネス基礎							
学科・コース	グローバルビジネス科							
担当教員	山梨千恵子							
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位		
講義		1	通年	必修	30	2		
授業目的 到達目標	国際ビジネスの基礎知識となる国際経済地理として世界の産業や貿易、様々な国際規格について学ぶ。輸出入の物流の仕組みなど国際物流の知識を企業連携を通して実践的に学びます。							
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド	
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業	○	フィールドワーク	○
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク	○	ロールプレイ	
	プレゼンテーション		PBL	○	模擬授業		その他	
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標			
	1～2	航空貨物概要①			① 航空貨物の知識を身に付ける ② 輸出サイド、輸入サイドでの業務について知る ③ 主要な国々の都市コード、空港コードが分かる ④ 海上輸送貨物の知識を身に付ける ⑤ 貿易取引の流れが分かる ⑥ 通関関連法務の用語を知る ⑦ 世界の国々の主要な産業を学ぶ ⑧ 世界の国々と日本の関係を知る			
	3～4	航空貨物概要② 現場研修						
	5～6	航空貨物概要③						
	7～8	グループワーク輸出編						
	9～10	グループワーク輸入編						
	11～14	国際海上貨物概要①						
	15～20	国際海上貨物概要②						
	21～26	通関地理①						
	27～30	通関地理②						
成績評価方法	平常点（25％）レポート（25％）科目修了試験結果（50％）							
使用テキスト ／教材	「通関ビジネス実務検定公式ガイド」、講師作成プリント							
関連科目	国際ビジネス応用							
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である。							

シラバス (授業概要)

2026 年度

授業科目名	TOEIC Speaking I						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	Anthony Cook						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
演習	・講義	1	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	This course develops the speaking skills assessed in the TOEIC® Speaking Test. Students practice responding to various question types, organizing spoken responses, and expressing ideas clearly and confidently in English.						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	・遠隔 <input type="checkbox"/>	・対面/遠隔 <input type="checkbox"/>	・オンデマンド <input type="checkbox"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1~2	Overview of the TOEIC® Speaking Test and Test Format.					
	3~4	Q1&2 -Read a Text Aloud: Strategies, pronunciation, intonation.			① Understand the format and task types of the TOEIC Speaking Test.		
	5~6	Q3&4 -Describe a Picture: Describing places, people, actions.			② Read short text aloud with appropriate pronunciation and intonation.		
	7~8	Q1-4 -Review & Practice			③ Describe photographs with appropriate vocabulary and sentences.		
	9~10	Q5-7 -Respdn to Questions: Giving Short simple answers			④ Respond appropriately to simple spoken questions.		
	11~12	Q5-7 -Respdn to Questions: Giving reasons and examples			⑤ Give explanations or reasons when answering questions.		
	13~14	Q8-10-Responding to Provided Information: Schedules			⑥ Use provided information to answer questions.		
	15~16	Q8-10-Responding to Provided Information: Notices			⑦ Provide opinions on familiar topics.		
	17~18	Q8-10-Responding to Provided Information: Other			⑧ Organize responses clearly.		
	19~20	Q1-10-Review & Practice			⑨ Provide reasons and examples to support opinions.		
	21~22	Q11 - Express an Opinon: Question Types & Sample Answers			⑩ Complete the TOEIC® Speaking Test with confidence.		
	23~24	Q11 - Express an Opinion: Giving reasons & examples					
	25~26	Q11 - Express an Opinion: Timed Practice					
27~28	Q1-11-Review & Practice Tests						
29~30	Q1-11-Review 6 Practice Tests						
成績評価方法	Effort & Participation (50%) Speaking Assessment Test (50%)						
使用テキスト ／教材	Teacher-created materials, practice tests, and TOEIC® Speaking preparation materials.						
関連科目	TOEIC Speaking II						
その他	Students are expected to participate actively in speaking practice. Students will take the TOEIC® Speaking Test at the end of the course. ※実務経験のある教員が担当する科目である。						

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	カスタマーサービス概論						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	大石 麻美						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
演習	・講義	1	前期	必修	30	1	
授業目的 到達目標	日本が世界に誇るおもてなしの心とは何かについて、グループワークを中心に学びます。また、幅広い接客接客業界の動向及び職種の内容についても理解を深め、適切なカスタマーサービスを提供できるスキルを習得します。						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	・遠隔 <input type="checkbox"/>	・対面/遠隔 <input type="checkbox"/>	・オンデマンド <input type="checkbox"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	授業説明・おもてなしとは何か					
	3～6	おもてなしの業界・職種理解			①おもてなしの基礎が理解できる		
	7～10	表現力の重要性			②必要な表現力を理解し活用できる		
	11～14	「航空業界」を理解する			③各業界の違いを理解できる		
	15～18	「ホテル業界」を理解する			④各業界の必要要素を理解できる		
	19～22	「旅行・観光業界」を理解する			⑤各業界で必要なおもてなしを提供できる		
	23～26	「小売業界」を理解する			⑥基本的な語彙力・表現力を習得できる		
	27～30	総括					
成績評価方法	平常点（35％）発表（30％）提出課題（35％）						
使用テキスト ／教材	講師作成プリント						
関連科目	国際ビジネス応用						
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である。						

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	Communicative English I						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	Anthony Cook						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
実技	・講義	1	通年	必修	60	2	
授業目的 到達目標	This course develops communication skills through learning about different countries and cultures. Students explore culture, cuisine, famous places, and useful local phrases each week, and practice communicating their ideas in English through videos, listening activities, pair work, and short writing tasks.						
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート	○	ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1~2	Course Orientation and Introduction to Global Cultures					
	3~6	Country study 1: culture, cuisine, and tourism			① Identify basic facts about different countries and cultures.		
	7~10	Country study 2: culture, cuisine, and tourism			② Understand key details of various foreign countries, e.g. capital cities.		
	11~14	Country study 3: culture, cuisine, and tourism			③ Discuss food, culture, and tourism using simple English.		
	15~18	Country study 4: culture, cuisine, and tourism			④ Participate in pair interviews about cultural topics.		
	19~22	Country study 5: culture, cuisine, and tourism			⑤ Ask and answer basic questions about countries.		
	23~26	Country study 6: culture, cuisine, and tourism			⑥ Express opinions about travel and culture.		
	27~30	Country study 7: culture, cuisine, and tourism			⑦ Recognize common greetings in various languages.		
	31~34	Country study 8: culture, cuisine, and tourism			⑧ Write short responses about cultural topics.		
	35~38	Country study 9: culture, cuisine, and tourism			⑨ Express preferences of food, travel destinations.		
	39~42	Country study 10: culture, cuisine, and tourism			⑩ Communicate cultural information with increased confidence.		
	43~46	Country study 11: culture, cuisine, and tourism					
	47~50	Country study 12: culture, cuisine, and tourism					
	51~54	Country study 13: culture, cuisine, and tourism					
55~60	Review & final communication activities						
成績評価方法	Effort & Participation (50%) Final Written Test (50%)						
使用テキスト ／教材	Teacher-created materials, videos, cultural information, and vocabulary activities						
関連科目	Communicative English II, TOEIC Speaking II, English Reading						
その他	Students are expected to participate actively in discussions and pair activities related to global cultures. ※実務経験のある教員が担当する科目である。						

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	Communicative English I						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	鍋田洋子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
実技	・講義	1	通年	必修	60	2	
授業目的 到達目標	幼児・児童英語教授法を理解し、実践するスキルを身につけます。フォニックスおよび音声学の学習を通じて発音を改善します。保育園の模擬授業にて幼児に英語を教え発話を引き出します。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業	○	その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	授業説明・自己紹介・目的と目標について					
	3～6	幼児・児童英語教授の目的と言語学習プロセス			①児童英語教授法の目的が理解でき、目標の設定ができる		
	7～8	フォニックスと音声学			②フォニックスが理解できる		
	9～14	フラッシュカードについて			③音声学の学習を通じて英語発音を矯正できる		
	15～18	絵本・歌を用いた教授法について			④各教授法を理解し、実践できる		
	19～22	ゲーム・クラフトを用いた教授法について			⑤児童英語教授法を理解したレスンプランを作成できる		
	23～26	保育実習			⑥レスンプランに基づいた模擬授業ができる		
	27～28	ティーチャーズトーク・インタラクション・演技					
	29～34	デモレッスン					
	35～38	レスンプラン作成					
	39～44	教具作成					
	45～50	デモレッスン					
	51～54	保育園模擬授業					
55～56	模擬授業振り返り						
57～60	フォニックスと音声学・まとめ						
成績評価方法	平常点（10%）発表（20%）課題提出（20%）模擬授業（50%）						
使用テキスト ／教材	子どもとはじめる英語発音とフォニックス、講師作成プリント						
関連科目	TOEIC SPEAKING II Communicative English II English Reading						
その他	動きやすい服装・靴を着用のこと ※実務経験のある教員が担当する科目である。						

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	比較文化研究Ⅰ						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	山梨千恵子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	通年	必修	30	2	
授業目的 到達目標	グローバル社会において求められる異文化理解力の基礎を身に付けることを目標とする。世界各国の文化を比較しながら自国文化への理解を深め、世界情勢や国際問題に対する多角的な視点を養う。						
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業 ○	フィールドワーク	
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク ○	ロールプレイ	
	プレゼンテーション ○		PBL ○		模擬授業	その他	
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	グローバル社会の基礎知識、「異文化理解力」とは					
	3～4	ハイコンテキスト文化・ローコンテキスト文化			① 異文化理解の基本を理解する		
	5～6	文化の影響と社会制度・移民問題と多文化主義			② ローコンテキスト文化・ハイコンテキスト文化の知識の習得		
	7～10	世界の宗教・多文化共生社会			③ 移民についてのトピックを理解できる		
	11～12	食文化・食習慣・風土・歴史			④ 世界三大宗教・世界の宗教についての基礎知識		
	13～16	プレゼンテーション①			⑤ 世界の食文化の基礎知識		
	17～18	言語と文化・多種多様な非言語コミュニケーション			⑥ 言語と文化についての基礎知識		
	19～20	世界遺産・日本の文化遺産/文化財			⑦ 世界遺産・文化財についての基礎知識		
	21～22	美術と芸術			⑧ 世界の美術・芸術についての基礎知識		
	23～24	世界の経済と情報社会・デジタルで変革する社会			⑨ 世界経済の基礎知識		
	25～30	プレゼンテーション②			⑩ 比較文化研究のプレゼンテーションができる		
成績評価方法	授業レポート（50%）プレゼンテーション（30%）平常点（20%）						
使用テキスト ／教材	授業内で配布する資料						
関連科目	比較文化研究Ⅱ						
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である。						

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	Vocational English I						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	Anthony Cook						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
演習	・講義	1	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	This course introduces English used in vocational contexts. Students explore careers in airlines, hotels, education, and airport services through videos, vocabulary activities, and role-plays. The course also develops practical communication skills such as professional self-introductions and answering common interview questions.						
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート	○	ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1~2	Course orientation and introduction to vocational English					
	3~4	Careers in the Airline Industry: video, vocabulary, and role-play			① Identify key vocabulary related to airline, education, hotel and airports.		
	5~6	Careers in the Hotel Industry: vocabulary, video, role-play			② Understand basic information about different vocational fields.		
	7~8	Careers in Education: vocabulary, video, and role-play			③ Use simple workplace vocabulary in speaking activities.		
	9~10	Careers at Airport: vocabulary, video, and role-play			④ Participate in role-play situations related to workplace communication.		
	11~12	Professional Self-introduction: Structure and Practice			⑤ Introduce themselves in a professional context.		
	13~14	Expanding Self-introductions: background, skills, and goals			⑥ Describe their background, interests and goals in simple English.		
	15~16	Introduction to job interviews and common interview questions			⑦ Understand common job interview questions.		
	17~18	Answering interview questions: Strengths and Motivations			⑧ Respond to basic interview questions using clear simple English.		
	19~20	Answering interview questions: Experience and Abilities			⑨ Demonstrate appropriate communication.		
	21~22	Answering interview questions: Goals and Plans			⑩ Answer interview questions with confidence.		
	23~24	Interview Role-play practice					
	25~26	Mock interview activities					
27~28	Group Discussion practice						
29~30	Final interview practice						
成績評価方法	Role-play and speaking activities (60%) Interview practice and final interview task (40%)						
使用テキスト ／教材	Teacher-created materials, vocabulary activities, videos related to vocational fields, and role-play tasks.						
関連科目	Vocational English II						
その他	Students are expected to participate actively in speaking practice. ※実務経験のある教員が担当する科目である。						

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	ビジネス英語						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	杉山和代						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	前期	必修	30	2	
授業目的 到達目標	貿易に関する基礎知識を習得する。英文Eメールやレターの読み方、海外取引の概要を理解する。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク		ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	英文Eメールの注意点、英文レターとEメールの定型文の英作文			① 短めの英文レターが読める		
	3～6	さまざまな場面のレターの内容理解			② 短めの英文Eメールが読める		
	7～10	さまざまな場面のEメールの内容理解			③ 基本的な貿易書類の内容が理解 できる		
	11～14	信用状取引の概要理解			④ 信用状取引の概要を理解できる		
	15～18	さまざまな貿易書類の基本的な理解			⑤ 輸出入における、ものとお金と書類 の流れを理解できる		
	19～22	輸出入における、モノとお金と書類の流れの理解			⑥ 英語でレターとEメールの定型文が 書ける		
	23～30	海外取引を行う2社の契約までの流れのEメールを読む					
成績評価方法	平常点（10%） 期末試験（90%）						
使用テキスト ／教材	講師が作成したプリント						
関連科目	国際ビジネス応用						
その他							

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	Mind Awareness						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	松永祐子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
演習	・講義	1	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	社会人として必要となる自己調整力をさまざまな角度から学んでいきます。理論を理解するだけでなく、日常で実践することにより、自分らしい幸せな生き方・働き方を見つけていくことを目指します。自己診断ツールを活用した授業もおこなっていきます。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	授業説明・自己紹介					
	3～4	ウェルビーイング			①自己調整力を高めることができる		
	5～6	強みを知り活かす方法（VIA-IS診断）			②他者との関係づくりのコツが分かる		
	7～10	内的コントロール心理学①（欲求と願望）			③自分の感情を自分で調整できる		
	11～14	内的コントロール心理学②（行動のしくみ）			④自分の強みの理解と活用法が分かる		
	15～16	怒り感情の取り扱い（怒りの仕組み）			⑤出来事への正しい認知と行動が選べる		
	17～18	怒り感情の取り扱い（怒りへの対処）			⑥ストレス耐性を養うことができる		
	19～22	ストレスマネジメント			⑦心の回復力を高めることができる		
	23～26	レジリエンス（心の回復力）			⑧自他への思いやりの効果を理解し		
	27～28	コンパッション（自他への思いやり）			実践できるようになる		
	29～30	科目修了試験					
	成績評価方法	平常点（40%）提出課題（30%）科目修了試験結果（30%）					
使用テキスト ／教材	オリジナルテキスト・「あなたが日々発する言葉が人生を変える！」ルイズ・ヘイ/駒野宏人著						
関連科目							
その他							

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	デジタルコミュニケーション I						
学科・コース	グローバルビジネス科						
担当教員	山梨千恵子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	後期	必修	30	2	
授業目的 到達目標	コンピュータ操作およびICTの基礎を習得し、ビジネスの現場で活用できるデジタルコミュニケーションスキルの基礎力を養う。ITパスポート試験のテクノロジ系分野を中心に、ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク・情報セキュリティなどの基礎知識を学び、情報社会で必要とされるITリテラシーの定着を目指す。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○	反転授業	○	調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート	○	ペアワーク		グループワーク		ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～4	ハードウェアの知識			① コンピューターの基本構成（CPU・メモリ・ストレージなど）を説明できる ② ハードウェアとソフトウェアの役割の違いを理解し説明できる ③ OS（オペレーティングシステム）の基本機能を説明できる ④ ネットワークの基本構成（LAN・インターネット・IPアドレスなど）を理解できる ⑤ インターネットの仕組み（DNS・サーバー・クラウドなど）を説明できる ⑥ 情報セキュリティの基本（ウイルス・不正アクセス・パスワード管理など）を理解し実践できる ⑦ データベースの基本概念（テーブル・レコード・SQLの基礎）を理解できる ⑧ アルゴリズムとプログラムの基本的な考え方を理解できる ⑨ 先端IT技術の概要を説明できる ⑩ ITパスポート試験のテクノロジ系の基礎問題を解くことができる		
	5～8	ソフトウェアの知識					
	9～12	ネットワークの知識					
	13～16	コンピュータとデジタル情報					
	17～20	プログラムとアルゴリズム					
	21～24	コンピュータシステム					
	25～26	情報セキュリティ					
	29～30	データサイエンス					
成績評価方法	科目修了試験結果（50%）授業内小テスト結果（30%）平常点（20%）						
使用テキスト ／教材	「ITパスポート超効率の教科書」						
関連科目	デジタルコミュニケーションⅡ、プレゼンテーション、English Media						
その他							

シラバス（授業概要）

2026 年度

授業科目名	海外生活・文化研修							
学科・コース	グローバルビジネス科							
担当教員	山梨千恵子・鍋田洋子							
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位		
実習	・講義	1	通年	必修	60	2		
授業目的 到達目標	イギリスでの2週間の留学に向けて、異文化理解力、自立した行動力、安全意识および国際的視野の基礎を養うことを目的とする。イギリスの文化・社会・生活習慣の理解、ホームステイマナー、安全教育、留学の目標設定などを通して、主体的に学び行動できる留学生としての基盤を形成する。							
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド	
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○	反転授業		調査授業	○	フィールドワーク	○
	双方向アンケート	○	ペアワーク		グループワーク		ロールプレイ	
	プレゼンテーション	○	PBL		模擬授業		その他	
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標			
	1～4	海外留学の目的・オリエンテーション						
	5～10	現地理解①（基本文化）			① 留学の目的を理解し、自身の行動目標を設定することができる			
	11～16	現地理解②（生活・マナー）			② イギリスの文化や社会の特徴を理解し、日本との違いを説明することができる			
	17～22	自己紹介・日本文化紹介プレゼンテーション作成			③ 現地で求められる生活マナーや行動ルールを理解し、適切に行動することができる			
	23～25	プレゼンテーション発表会			④ 自己紹介および日本文化紹介のプレゼンテーションを作成し、発表することができる			
	26～27	エアライン科との連携授業（チェックイン・機内）			⑤ 渡航手続きやビザ申請などの基本的な準備を理解し、出発に向けた行動を取ることができる			
	28～41	留学冊子の作成			⑥ ホームステイにおける生活ルールやケーススタディを理解し、適切に対応することができる			
	42～44	渡航手続き・ビザ申請			⑦ 海外での安全意识を身に付け、危険を回避しながら行動することができる			
	45～48	ホームステイのケーススタディ			⑧ 留学の学びを振り返り、経験を整理して発表することができる			
	49～52	海外安全教育						
	53～54	渡航前最終準備						
	55～60	留学発表会（帰国後）						
成績評価方法	プレゼンテーション（25％）レポート・留学冊子（25％）提出物・課題（20％）平常点（20％）最終振り返りレポート（10％）により総合的に評価する。							
使用テキスト／教材	授業内で配布する資料							
関連科目	比較文化研究Ⅱ							
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である。							